

講義名	英語で学ぶグローバルコミュニケーション(総合)			授業形態	
担当教員	中川 典子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

#### 主題と概要

今日の社会では、外国語を手段として使い、グローバルな視点で物事を考えることが益々、重要視されている。本コースはこのような現状に対応するため、異文化を理解し、文化的多様性に対して寛容な態度をもち、世界に適用する基本的な英語力をもったグローバル人材を育成することを目的とする。授業ではテキストを使った演習や課題、クイズの実施により、英語によるコミュニケーション能力の育成を目指す。

#### 到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。

- (1) 課題解決型のスキットを通じて、英語力だけでなく、グローバル人材に求められるコミュニケーションスキルや課題解決力を身につけることができる。
- (2) 英語母語話者だけでなく、ノンネイティブ(英語母語話者以外)の人々の生の英語による教材を使用することで、実際のグローバルな英語環境に親しむことができる。
- (3) ペアワークにより、日常の様々な場面における実践的な英語力を習得できる。
- (4) リスニングクイズの実施により、基本的なリスニング力を伸ばす訓練を行う。

#### 提出課題

基本文法やイディオムに関する演習問題、テキストの内容に沿った会話文の作成、その他、授業で配布するテキストの内容に準拠して担当者が作成したワークシート等、さまざまな課題に取り組み、

#### 課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

毎回、小テスト(リスニングクイズやテキストの各ユニットの復習クイズ)を実施し、解説する。受講生が提出したワークシートの英語表現を添削指導し助言する。

#### 評価の基準

(1) 小テスト (30%)  
(2) 課題 (30%)  
(3) 定期試験 (40%)

\*コースの評価は、上記の成績評価基準のすべての項目を総合して行うが、一つでも不参加の項目がある場合は不合格となる。また、授業中の態度が悪く悪い、教科書を持って来ないなどの行為が見られた場合は、大幅な減点となるので留意すること。教科書は解答が書かれた他人からもらったものは使用不可とする。

#### 履修にあたっての注意・助言他

(1) 前掲のように、コースの評価は上記の成績評価基準のすべての項目を総合して行うが、一つでも取り損なな項目がある場合は不合格となる。  
(2) 特別に認められる理由以外の15分以上の遅刻は欠席となる。コースの3分の1にあたる5回以上の授業を欠席すると定期試験の受験資格を失い単位を取得できなくなる。3回の遅刻で欠席1回となる。  
(3) 教科書は当然、購入しているという前提で授業を実施する。教科書がないことにより生じる不都合は自己責任となる。  
(4) 課題はWord形式で提出すること。スマホからの写真やテキストでの提出物は受理しない。  
(5) 毎週、授業開始直後の約10分間を使ってクイズを実施するので遅刻しないこと。欠席した場合の追試は実施しない。  
(6) 教科書は解答が書かれた他人からもらったものは使用不可とする。  
(7) その他、授業に関する詳細については第1回目の講義資料で説明するので、必ず出席すること。

\*提出課題を含むすべての連絡事項はRyuka Portalのキャンパスクロスを通じて行うので、必ず確認すること。

#### 教科書

.Must-Have English Skills for Global Communication.	Shinichi Shibata,Rie Jindo, Lindsay Wells	Kinseido	1,900	9784764740594
---	---	----------	-------	---------------

#### 参考図書


#### その他

必要な資料は適宜、配布する。

#### 授業計画

1. ガイダンスと自己紹介
2. May I help you? (困っている人に話しかける)
3. What do you do on the weekend? (初対面の人と会話を繋げる)
4. That sounds interesting! (ポジティブ・ネガティブな意見を述べる)
5. I'm not feeling well. (体調を伝える)
6. You shouldn't stop there (注意する)
7. Why don't we buy potatoes, too? (提案する)
8. Would 5pm be convenient for you? (スケジュールを調整する)
9. I'll have to pass. (依頼を断る)
10. I have an idea. (解決策を提案する・協働作業をする)
11. Could you do me a favor? (お願いする)
12. I think you could explain this more. (アドバイスを)
13. I don't get what you mean. (相手を聞き返す)
14. I'm so sorry to hear that. (相手を励ます)
15. That's not what I meant. (誤解を解く・真意を伝える)

\*授業内容は毎回の進捗状況により、調整する場合がある。

#### 授業形態(アクティブ・ラーニング)

A: PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/>	I: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
W: ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	E: グループワーク
O: プレゼンテーション	<input type="radio"/>	K: 実習、フィールドワーク
※: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)		

その日の学習内容に応じて上記を1適宜採用する。

#### 準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習: 習得の授業のための準備をし、課題を提出する。英文法やイディオムの課題やテキストのワークシートに取り組み、リーディングセクションの単語検索、次回のクイズの準備(2時間)  
復習: その日に学習した内容の復習(テキスト内容のリスニング、会話文やリーディングセクションの音読を含む)、その週の課題に取り組み。(2時間)

#### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本コースでは英語学習を通じて、円滑な異文化間コミュニケーションに必要な知識とスキルを修得する。これは「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」を育成するという本学の全学共通目標の達成に資する理由以外の15分以上の遅刻は欠席となる。コースの3分の1にあたる5回以上の授業を欠席すると定期試験の受験資格を失い単位を取得できなくなる。3回の遅刻で欠席1回となる。

#### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業に関する質問は随時受け、授業中あるいはキャンパスクロスを通じて回答する。受講生からの提出物を添削し、フィードバックを行う。

#### 実務経験の有無及び活用


#### 備考

積極的な授業活動への参加と課題の提出は必須である。テキストを購入しなければ課題を提出することはできないので履修登録後、すみやかに購入手続きをすること。テキストを購入しないことによるすべての不都合は自己責任であることを留意すること。前掲のように、授業に関する連絡事項はすべてキャンパスクロスを通じて行う。